

## 論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1226号	氏名	竹原 浩介
論文審査担当者		主査教授	田口 尚
		副査教授	新川 詔夫
		副査教授	河野 茂
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価</p> <p>本研究は副腎皮質腫瘍における特異的な機能発現と悪性度について、増殖能や遺伝子変化との関連から検討し、本腫瘍の生物学的特性を明らかにしようとしたものであり、研究の目的は妥当である。</p>			
<p>2. 研究手法に関する評価</p> <p>副腎皮質腫瘍症例24例（皮質癌3例、皮質腺腫21例）を対象とし、FACScanを用いてDNA ploidyを検索し、FISH法にて17番染色体の異常を検討した。また、免疫組織化学的にKi-67とp53の発現を検討したものであり、その研究手法は妥当である。</p>			
<p>3. 解析考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、副腎皮質癌では皮質腺腫に比較し有意にKi-67発現率が高く、副腎皮質腫瘍の悪性度の評価には有用であった。皮質腺腫において、原発性アルドステロン症はクッシング症候群より核DNA量は増加するが、増殖能は低いことが示された。また、17番染色体の遺伝的な異常と癌化との関連性が示唆された。副腎皮質腫瘍における特異的な機能発現や悪性度を検索する上で重要な所見であり、高く評価される。</p> <p>以上のように本論文は副腎皮質腫瘍の生物学的特性の解明に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			

(注) 報告番号は記入しないこと。